

令和4年度

社会福祉法人伯和会

事業報告書

I 基本的事項《基本理念》

法人の信条である「奉仕・博愛・寛容」に基づく介護サービスを信条にし、全職員と全利用者の物心両面の幸福を追求し社会福祉の発展を目指す事を目標にしてきたが、コロナ禍のため外部との交流をはじめ実現が難しかった。

II 経営組織のガバナンスの強化

1 理事会

→財務諸表や業務執行などの適切な公表に努めた。

2 評議員会

→法人運営の基本ルール・体制の決定と事後的監督を行った。

3 監事

→法人の業務監督及び財務諸表の一層の適正化と透明性の強化を図るべく税理士および市の監事に監査をお願いした。

III 事業運営の透明性の向上

1 財務諸表・現況報告書等の公表。

→財務諸表・現況報告書等の設置・閲覧やホームページでの公表を適切に行い、法人運営の透明性の確保を図った。

2 役員報酬基準の作成

→作成準備をするも、コロナにより文書決裁に終わり、報酬の議題まで至らなかった。

IV 財務規律の強化

1 社会福祉充実残額の明確化

→会計年度ごとに控除対象財産、社会福祉充実残額を明確にした。

2 社会福祉充実計画の作成と実施

→令和4年度については、社会福祉充実残額はマイナスの為、法人が策定する社会福祉充実計画は作成していない。

V 地域公益活動の実施

1 地域公益活動の検討と具体化

→地域の独居高齢者、障害者、経済的に困窮する者等を支援する、福祉ニーズに応ずるサービスを構築するよう計画しようとしたが、コロナ禍により実現できなかった。今後も実現に向け努力していく。

VI 事業収入の安定的確保

1 事業収入のアップや各種加算の確保などにより事業収入の安定を図る

→コロナウイルス感染のクラスターにより、事業収入減収となってしまった。

感染対策を強化し、事業継続できる体制づくりをしていくよう努力する。

2 財務管理の強化と経費削減

→予算管理の徹底や財務管理体制の強化を図ったが、建物本体の老朽化もあり、修繕費が160万円ほど増額となった。また、光熱費・燃料費も高騰し1,000万円の増額となってしまっている。補助金を利用しケアハウスではLED交換を実施し、光熱費削減に努めた。

さらにクラスターにより消耗品等240万円以上経費が発生。今後、感染予防を強化し、経費削減に努めたい。

VII 良質な福祉サービスの提供

1 利用者の人権人格の尊重

→令和4年度も、コロナウイルスが流行したことから、研修会等集まることができず書面による啓発を行った。

VIII 人材確保と育成

1 各委員会の活動を通してサービスの質の向上のための取組を推進する。

→各委員会を開催し、目的の周知と現場に寄り添う形での取り組みを意識して行った。

2 利用者、職員にとって、より安全で安楽な介護を目指す。

→環境の見直しと、介護技術、知識の向上を図った。また、入居者の過去の事故を振り返り2度と同様の事故を繰り返さないよう努めた。またそういう人材を育てていくように努めた。

3 利用者の自立支援促進や、職員の健康管理のため福祉・介護機器の導入を検討する。

→利用者への統一した対応の実施で自立支援を行った。機器については、予算と選定等の検討を行ったが導入まで至らなかった。

4 サービス評価の実施

→第三者評価を通じてサービスの点検と改善を図ろうとしたが、コロナの関係より実施できなかった。市の監査でも指摘事項となっているので次年度以降の課題としたい。

IX 組織の活性化

1 職員の労働環境の整備

→職員の処遇改善や職場環境の整備に努め、職員がいきいきと働く事を目指した。

2 人事考課制度の導入とキャリアパスの構築

→人事考課を取り入れ、個々のレベルアップと組織の活性化を図った。

3 職員の満足度調査等の実施

→ストレスチェック等を実施し、ワークライフバランスの乱れや体調不良の継続な

どでの離職の防止に努めた。

4 ICTの積極的活用

→利用者支援の充実や業務効率化推進のため、ICTを積極的に活用出来るか検討したが、予算と機械選定のおりが合いが合わず、タブレットの使用までにとどまった。また、コロナウイルス蔓延3年目の為、自粛に繋がり計画に元付く進行が思うようにできなかった。

X 危機管理の強化

1 コンプライアンス体制の強化

→内部牽引体制の強化や情報管理の徹底、各種法令や基準を遵守し、法人としての信頼性を向上させることに努めた。

2 危機管理の強化

→リスクマネジメント教育を強化し、安全、安心な体制を構築するよう努力した。

3 防災対策の定期的見直しと訓練の実施

→年2回の避難訓練の実施、防災機器の点検を実施

<法人運営事業>

① 法人運営の基盤強化経営体制の強化

→理事会・評議員会への審議、監事による業務及び財産の状況など、監査の実施により、適正な法人施設経営が実施できた。公認会計士による財務会計事務処理体制の向上を目指し適正な財務管理を行うよう努めた。

② 自主財源の確保

→多くの企業様や支持いただける方々を募り強力に推進したいと考えたが、実質そのような状況になかった。

理事会・評議員会開催日程

令和4年度第1回理事会	令和4年6月7日	文書により実施
令和4年度第1回評議員会	令和4年6月24日	文書により実施
令和4年度第2回理事会	令和4年11月7日	文書により実施
令和4年度第3回理事会	令和5年3月15日	文書により実施

令和4年度

特別養護老人ホームえんじゅ
事業報告書 (案)

社会福祉法人 伯和会

特別養護老人ホーム えんじゅ

令和4年度特別養護老人ホームえんじゅ施設運営方針

I. 施設サービス向上のために

- 1、法人の信条である「奉仕・博愛・寛容」を基本とし、えんじゅ理念「笑顔で明るく、元気良く、優しさを持って接します」「心地良い生活と環境を提供します」「自由で楽しい暮らしを目指します」の3つの柱をもとに、ご入居者それぞれのニーズに合った施設サービス計画書（ケアプラン）を作成し、今までの生活習慣や個人の意思を大切にするとともに、自己決定、自己選択や残存能力の活用を図ることで、少しでも自立した質の高い生活が送れるよう支援に努めました。
- 2、介護給付対象サービスとして、入居者に対し、入浴、排泄、食事等の介護、相談等の精神的ケア、社会生活上の便宜、日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上のお世話を提供しました。
- 3、社会福祉法人制度改革、費用負担の公平化、介護保険の改定など施設運営が大きく変化している情勢に対応する為、施設運営における課題、問題点の把握、検証と改善に向けた実践に取り組み、安定した運営と魅力ある施設作りに努めました。また、社会に対し社会福祉法人として求められていることを一つずつ実践していくよう努めました。加えて、職員の自己研鑽による一人一人の質の向上と、地域住民として共に暮らすことを視点とした開かれた施設を目標として、安らぎのある地域社会を作り出せるような施設運営を行いました。

《特別養護老人ホームえんじゅ 理念》

- ・笑顔で明るく、元気良く、優しさを持って接します。
(笑顔で優しい声掛けを行います)
- ・心地良い生活と環境を提供します。
(清潔保持に努めます)
- ・自由で楽しい暮らしを目指します。
(自己決定を尊重します)

《ワーカー心得》

- ・相手の立場になって物事を考えます。
- ・何故、どうしての問題意識を持ちます。
- ・分からないことはすぐ聞きます。
- ・積極的に行動します。
- ・情報を共有します。

II. 在宅福祉サービスの向上のために

1. 各関係機関との協力体制を図りました。
2. 地域に支えられた施設であるとの認識を持ち、専門的な働きかけに努めました。
3. 短期入所事業を行うと共に各種の福祉サービスの利用法について啓蒙しました。

Ⅲ. 職員が安心して働けるために

1. 面接や業務見直しを行いながら、働きやすい職場作りと、勤労意欲の向上を図りました。
2. 給与充実の為、介護給付費の処遇改善加算・特定処遇改善加算について「加算Ⅰ」が継続できるよう、体制の整備を行いました。
3. 年2回の職員健康診断を実施するとともに、日々、職員の健康管理に努めました。

Ⅳ. 適正な事務の遂行

適正な施設運営を実施するために

1. 各種規定に基づいた事務を実践しました。
2. 予算の適正な管理及び執行をしました。
3. 業務の効率化を図りました。
4. 職種間の連絡、周知を徹底しました。

Ⅴ. 施設設備・備品の保全・改修

1. 業務用洗濯機の修理
定期点検において指摘のあった劣化部品の交換を実施しました。
2. ガラス交換
R4.3.16の地震により落下・破損した防煙ガラスの修繕を行いました。
3. 中間浴槽の入れ替え
故障により使用不可能となった中間浴槽を、新品に入れ替えました。
4. ベッドの購入・部品交換
開設時から使用していることから、老朽化が進んでおり、新しく6台のベッドの入れ替えを実施しました。また、キャスターの劣化が顕著であった為、30台分のキャスターを交換しました。
5. 介護用品・その他備品の整備
車椅子に関して、アームサポートの跳ね上げ、フットサポートのスイングアウトが可能な車椅子を、家族会からの協力で3台購入しました。劣化が進んだ車椅子は適宜処分しました。また、腰痛対策として、補助金を活用し、スライディングボード5枚、スライディングシート5枚を購入しました。

Ⅵ. 安定的経営基盤の確保のために

1. 安定した収入の確保に努めます。
 - ・事前実態調査を適宜実施することで入退居による空床期間を少なくし、一定期間内で円滑に入退居が行えるように努めました。
 - ・水光熱費、備品等の管理、見直しを適宜行い、経費節減を図りました。
 - ・算定可能な各種加算の取得に努めました。

2. 施設の設備・備品等の更新・改善を行います。
 - ・入居者の重度化に伴い、各種福祉用具等備品の整備を行うと共に、状態に合わせた用具の購入を検討しました。
3. 人材の確保に努めます。
 - ・ハローワークとの連携を図り、人材確保に努めました。
4. 自然災害等に対するの備えを整備します。
 - ・非常災害時（地震、火災、噴火等）を想定した研修や訓練を計画・実施し、非常時の入居者、職員が安全に行動し避難が行えるように努めました。また、SNS を活用した連絡体制の構築も進めました。

VII. 人材育成ならびに業務改善に向けた取り組み

1. 現在の業務内容についての再確認（手順書の作成とマニュアル見直しの実施）を行う事で業務の見える化・情報の共有を図り、業務の標準化・統一化を進めていきます。
2. 計画的な研修・勉強会の実施により、豊かな人間性の構築と、資質向上を目指します。
3. 『伯和会と職員の皆さんとの約束事（クレド）』と『伯和会職員の「自分ルール」』に記載されている内容を職員が意識的に実践できるように働きかけ、職員誰もが笑顔で気持ちよく働ける環境づくりを進めていきます。

VIII. 短期入所介護

- ・短期入所の特徴の一つとして、在宅から施設、施設から在宅と環境が常に変化することが上げられ、生活状況が少なからず違う部分があることを踏まえ、利用前の在宅における生活と利用中の生活が連続したものとなるよう配慮しながら、利用者同士が相互に社会的関係を築き、自立的な日常生活を営めるということを念頭に置いて支援しました。また、住み慣れた自宅や生活を共にされてきたご家族らと離れる事により、心理的負担というものがご利用者の皆様には大きいものと考え、一人ひとりと向き合い、そして寄り添い、個々のニーズにあった支援を行う事で安心、安全な生活を提供しました。
- ① 短期入所生活介護の基本定員は 10 名で行い、居室も専用の居室を準備しました（4 人部屋 2 室、個室 2 室を使用）。その時々のご利用者の方々の身体状況、精神状況などを重要視しながら、安心かつ安全な、在宅と施設の生活が連続性のあるものとなるよう支援しました。
 - ② 短期入所生活介護（介護予防短期入所生活介護含む）は、在宅での生活が可能な状態の方で、要介護度が要支援 1 から要介護 5 までの方が対象となりますが、要介護度の利用限度範囲を超えた方については、実費利用と適切な対応により受け入れ対応しました。
 - ③ 施設サービス提供にあたり、ご利用者の皆様には介護支援専門員を中心とし、ご利用者の皆様の在宅ケアプランに添った施設ケアプランを作成しました。食事、入浴、排泄などその方に合った形でのサービス提供に努めました。また、入所時より、バイタルチェックを行うと共に自宅における状況、変化、必要な処置等の有無など確認し、利用者の皆様の健康管理に留意しました。

- ④ 日常生活支援については、一人ひとりの利用者の方々に併せた余暇時間を通しての協同作成物の一連の作業～掲示、レクリエーションの実施、季節に応じた行事の開催、手作り昼食会の開催など、個人の持つ潜在能力に働きかける支援内容にて、意味のある個人の存在の理解、役割のある日常を心がけ支援しました。
- ⑤ 退所時においては、短期入所生活介護利用中における生活の様子をお伝えし、在宅へ帰宅したからの生活が継続出来る様に支援しました。
- ⑥ 施設内でコロナ陽性者が発生し、令和4年8月23日～9月5日及び、令和4年12月3日～令和5年1月5日までの期間、ショートステイの受け入れを一時的に中止しました。
- ⑦ 在宅介護が困難であるにもかかわらず、入所先や入院先が決まらない方に対し、入所決定までの繋ぎとして、ミドルステイを提供しました。ミドルステイから4名の方がえんじゅ長期入居となりました。

IX. 業績

<資金収支>

事業活動収入	261,545 千円 (前年比 △7,128 千円)
	(R3 年度実績 268,673 千円)
事業活動支出	265,244 千円 (前年比 17,132 千円)
	(R3 年度実績 248,112 千円)
事業活動収支差額	△3,698 千円 (前年比 △12,675 千円)
	(R3 年度実績 8,977 千円)

<事業活動収入>

長期入居については、年間居室稼働率 94.07%で前年 98.69%より 4.62%の稼働率減となりました。要因として、年間退所人数が 31 名と、前年度の 11 名に対して大きく増加した事と、退所者が特に増加した期間に、コロナのクラスターが重なり、新規受け入れが先延ばしとなったことで、稼働率減に繋がりました。また、令和5年3月31日現在の平均介護度が 4.10、平均年齢 89.5 と、入居者の重度化と高齢化が進んでいること、新規受け入れに関しても緊急性が高く介護度の重い方を優先的に受け入れている事が、年間退居者数の増加に繋がっていると推測されます。

短期入所については、年間利用率が 69.86%で前年 82.55%より 12.69%の大幅減となりました。コロナによる休業によるものと、ミドルステイから長期入居への移行が大きな要因となりました。

<事業活動支出>

大きな支出としては中間浴槽の入れ替えがありました。突発的な配管漏れや、雨漏り箇所の修繕等での支出もありました。コロナウイルス関連では、抗原検査キットやガウン・マスク等の防護用具の購入費がかさみました。コロナウイルス感染症流行に伴い、外部研修へ職員を派遣できなかった分、研修費が抑えられました。

※令和4年度の稼働率・収入実績等につきましては、別添の「施設入所実績報告書」「短期利用実績報告書」をご参照ください。

令和4年度施設援助方針

I. 日常生活介護

施設サービスは、えんじゅ職員が、ご入居者一人ひとりの施設サービス計画に基づいて提供しました。ご入居者の意思を尊重し、自立支援を念頭に、個々のニーズに沿った支援に努めました。ご入居者の変化しやすい心身状況や日々変化する日常に合わせて、適切なサービスの提供に努めました。

1. 食事

食事は、原則的に食堂で顔を合わせて召し上がっていただきましたが、コロナ流行時は状況に応じて個室配膳等で対応しました。また、食生活の重要性を認識し、管理栄養士による栄養ケア計画を作成し、ご入居者の健康状態を多角的に評価し、食からの健康維持・意欲向上を図れる事を目標に食事提供を実施しました。栄養バランス・味付け・調理方法等について、身体的条件、嗜好等を配慮し、ご入居者が健康で楽しい生活を送る上で最も大切なもののひとつとして提供に努めました。その時々も感じて頂ける様季節食や行事食も提供しました。

2. 排泄

排泄は、可能な限りトイレをご利用いただきました。そのために常にトイレの清潔の保持に努めるとともに、トイレ内にある手すりや緊急コールボタンを利用し、安心して快適に使用できるようにしました。また、個人の排泄パターンを把握するために調査を実施、排泄記録をつけポータブルトイレ等の活用、リハビリパンツ、尿取りパッド等とトイレ誘導の併用により、できるだけオムツを使わない方法を目指しました。オムツは、座位が取れない、尿意・便意が無い、ご入居者の体調不良等、やむを得ない場合に限り使用しました。オムツ交換及びトイレ誘導は、各個人ごとに調査した排泄パターンを元に、時間や支援内容を設定し実施しました。

3. 入浴

一般浴槽故障中につき、機械浴（シャワーベッド）、中間浴（チェアインバス）の2種類の入浴方法を用意し、ご入居者の身体の状態に応じた入浴サービスを提供しました。入浴日は、ご入居者1人あたり週2回を基本とし、ゆとりをもった、楽しみのある入浴サービスを提供しました。入浴できない方に対しては清拭や衣類交換を行いました。

4. 着替え

利用者一人ひとりの身体の状態をよく見極め、衛生面に留意しながら着替えの支援を行いました。着替えを行うことで衛生面だけではなく、気持ちのリフレッシュを図りメリハリを付ける事で生活全体にリズムを取りやすくし、意欲の向上へ繋げられるよう支援しました。

5. 移動、移乗、体位変換

ベッド、椅子、車椅子、便器、浴槽等の間の移動・移乗は安全性を十分考慮し、ご入居者の身体の状況に合った方法で行いました。また、杖、歩行器、シルバーカー等の補助具を有効に活用し、できる限り自立移動ができるよう支援しました。

自分で寝返りをうつことのできないご入居者に対しては、褥瘡（床ずれ）を防止するために、体位変換の介助、体位変換チェック表の使用も行い、確実に実施できるよう努めました。必要に応じて、クッション、耐圧分散マットレス、エアマット等を使用しました。

6. 口腔衛生

夕食後に口腔ケアを実施し、その他口腔内トラブルのリスクが高い方や体調不良者、看取り期に入った方に関しては、都度口腔ケアを実施しました。ご入居者の状態に合わせて、必要かつ適切な口腔ケア用品の使用を行い、歯磨き、うがい、スポンジブラシによる口腔内の拭き取り、義歯の洗浄などを支援しました。口腔衛生は、ご入居者の健康増進・維持に不可欠であるため、受診が必要な方は適宜嘱託の歯科医師等を受診しました。

7. 整容

整髪、爪切り、髭剃り等を適宜行いました。また、外出や行事の際には、ご要望により、お化粧品やお洒落のお手伝いをしました。

8. 介護用品の選定及び衛生維持、安全点検

ベッド、エアマット、クッション、車椅子、歩行器、杖、介護テーブル、ポータブルトイレ、入浴補助具等の介護用品については、使いやすさと安全性から選定し、その清潔の維持および安全点検に努めました。

II. 日常生活援助

施設での生活の充実を図るため、ご入居者一人ひとりの生活状況に応じた支援を行いました。

1. 居室環境の整備

ご入居者の意向を尊重しながら、心身の状態、人間関係に配慮しつつ、ご入居される皆様が快適で居心地の良い居住空間を確保できるように努めました。又、介護の安全性を確保するため、必要に応じて居室の変更を行いました。

2. 買い物及び代行

おやつ他、日用品、必要物品の買い物を職員にて代行しました。また週に1回近隣の商店（岡崎商店様）の協力をいただき、施設での買い物を実施していましたが、取り扱い商品が入居者のニーズにそぐわなくなった為、岡崎商店からの購入は中止し、通信販売からの購入を主としました。

3. 洗 濯

日常の衣類の洗濯、乾燥、居室への返却を行ないました。衣類の素材の状況に応じて、傷まないような適切な洗濯方法を選び、洗濯を行いました。

4. 理 容

頭部の清潔とお洒落を楽しんでいただくため、原則として毎月第2月曜日、理容師によるサービスを提供しました（ご入居者実費負担）。ご本人の希望を伺い、理容組合の方々とも相談しながら、頭の形や髪質などにも気を配りながら実施しました。

5. 外出、外泊

コロナウイルス感染症の流行を鑑み、やむを得ない通院等以外の外出は控えました。

6. 金銭管理

ご希望がある場合は、現金、預・貯金の通帳、実印等の管理の他、施設利用料や公共料金等の支払い等を担当者にて適切に代行しました。（預り金等取扱規程に基づき、利用料4,000円をご負担いただいております。）

7. 行政手続等の代行

ご入居者のご要望に応じて、市町村等に提出する書類の代筆、申請の代行、郵便物等の投函等を、その都度、担当者にて適切に代行しました。

8. 要介護認定に関する代行、認定調査の付き添い

要介護認定の更新・変更申請をご入居者、ご家族に代わって行いました。また、更新調査における付き添いを行い、ご本人の状況などを更に詳しく調査員の方へお伝えしました。

Ⅲ. 健康管理

ご入居者が健康で快適な生活を営めるよう、疾病の早期発見・早期対応に努め、生活の自立性を低下させないように支援しました。

1. 日常の健康管理

ご入居者の健康状態の細かな観察に努め、嘱託医および協力病院への連絡、職員間の情報交換を図りながら、健康維持に努めました。

2. 定期健康診断

胸部レントゲン撮影、心電図、血液検査を、年に1回実施しました。

3. 体重測定

毎月実施し、前月との著しい増減等がないか確認しました。体重変化に著しく違いが生じるご入居者や、栄養状態のチェックが必要なご入居者に対しては、その都度実施しました。

4. 体温・血圧・脈拍等の測定

週2回の入浴前に定期的に体温、血圧、脈拍等の測定を実施しました。その他、体調に変化が見られた際は必要に応じ、適宜測定を行いました。

5. 食事・水分摂取・排泄の把握

毎日の食事・水分の摂取量を把握しました。摂食不良時は、医師の指示の下、看護職員、管理栄養士、介護職員、介護支援専門員が連携して、その時の状態に合った食事提供（必要な栄養素の確保）・水分補給ができるように対応しました。

6. 医師の診察

毎週月曜日、主治医（内科医）が来診する他、月に1回、精神科医が来診しました。通院あるいは入院しての診療が必要な場合は、看護・介護職員が付き添い、施設車両にて送迎をしました。

7. 口腔衛生

ご入居者の状態に合わせた口腔ケア用品を選定し、夕食後に口腔ケアを実施し、誤嚥性肺炎の予防等に努めました。

8. 服薬

医師の診察のもと、病状に応じて、ご入居者に服薬していただきました。

9. 医療機関との連携

協力医療機関やご入居者の主治医との連携を密にし、日常の健康管理について適切な指示を得るとともに、緊急時の受け入れ先を確保しました。（救急車を利用する場合は他の医療機関へ搬送される場合もありました。）

10. 夜間緊急時の対応

看護職員が不在になる夜間・早朝帯のご入居者の容態の急変に、待機の看護師が対応しました（オンコール体制）。

11. 感染症等の予防

コロナウイルス感染症について注意深く情報収集を行い、流行の動向をみながら、外部からの受け入れ・面会対応等について、嘱託医と協議しながら対応を検討したほか、居者・職員に対してのワクチン接種も適宜実施しましたが、8月に長期入居者2名と職員4名がコロナ陽性となり、12月にはクラスターが発生し、職員・入居者合わせて40名以上がコロナ陽性となりました。その反省を踏まえ、今後の感染対策やマニュアル等の見直しを実施しました。

12. 職員の健康管理

年2回の職員健康診断を実施するとともに、日々、職員の健康管理に努めました。直接処遇の介護職員については、年に2回腰痛検査を実施しました。また、年1回のストレスチェック実施により、精神衛生面での健康についても配慮しました。加えて、健康診断・ストレスチェックの結果を踏まえた産業医面談も随時実施しました。

令和4年度嘱託医・協力病院

令和5年3月31日現在

《嘱託医》

1、内科医

水野内科クリニック

水野圭司 先生 毎週月曜日 午後
水野友貴 先生

2、精神科医

仙南サナトリウム

渡辺吉彦 先生 毎月第三金曜日

3、リハビリテーション担当

柔道整復師

黒木雄大 先生 毎週水曜日

《協力病院》

1、刈田総合病院（白石市）

2、歯科医

広瀬歯科医院

廣瀬清憲 先生 随時

令和4年度防火、防災計画

避難が困難なご入居者が多い為、定期的な訓練を実施し、ご入居者及び職員に対し防火、防災意識の高揚と地域消防団、地域住民の協力体制を推進しました。

1. 非常災害対策計画に基づき、個別の防災対策の周知徹底に努めました。
2. 個別の避難方法を確立しました。
3. 夜間及び休日の防災体制を確立しました。
4. 消防設備器具、危険物施設の定期的な点検を実施しました。
5. 災害時の非常食については、常時三日分を備蓄、保管しました。
6. 緊急連絡網の確立を図りました。
7. 避難訓練実施状況

<夜間想定避難訓練>

1. 日時 令和4年5月9日 午後3:45～
2. 目的 施設入居者の大半が障害を持ち、寝たきりや車椅子、杖などを使用しています。これらの特殊性を鑑み、災害に対応する為、えんじゅ併設施設の特別養護老人ホームみずきやケアハウスやまぶき・デイサービスセンター茶園及び白石市総合福祉センターとの共同防災により、通報、避難、誘導を行うことで、防災体制を確立することを目的とし実施しました。
3. 訓練内容 放送訓練・消火訓練・避難誘導訓練・非常持ち出し訓練
4. 出火時間 午後3:45（夜間午後11:45 想定）
5. 出火場所 ケアハウスやまぶき 地下2階洗濯室
6. 避難場所 えんじゅ西側非常口付近
7. 職員構成 職員夜間勤務中（想定）による訓練

<避難訓練>

1. 日時 令和4年11月30日 午前9:00～
2. 目的 空気の乾燥が増し、火気の取り扱い機会も増える時期となる為、火災への注意を促し、より一層の防災予防の意識を高めることを目的とし実施しました。えんじゅ併設施設の特別養護老人ホームみずきやケアハウスやまぶき・デイサービスセンター茶園との共同防災で実施し、通報、避難、誘導を行うことで、防災体制の確立を図りました。
3. 訓練内容 放送訓練・消火訓練・避難誘導訓練・非常持ち出し訓練
4. 出火時間 午前9:00
5. 出火場所 特別養護老人ホームえんじゅ 地下ボイラー室
6. 避難場所 えんじゅ正面玄関前
7. 職員構成 職員勤務中による訓練

施設入所実績報告書

利用年月：令和4年4月
 サービス：51 福祉施設
 事業者：特養 えんじゅ
 表示項目：収入実績等

1. 収入実績

令和4年	介護サービス費				特定入所介護サービス費								合計	平均/日	
	保険請求	公費請求	利用負担	公費負担	食費				居住費						軽減額
					保険請求	公費請求	利用負担	公費請求	保険請求	公費請求	利用負担	利用負担			
令和4年4月	15,620,701	67,650	1,649,049	50,520	1,287,400	36,000	1,081,080	896,268	0	621,140	10,310	641,665	25,781	21,936,002	731,200
先月(3月)	16,297,438	81,552	1,721,360	40,550	1,355,160	37,200	1,119,050	945,483	0	661,980	8,530	564,662	26,877	22,806,088	735,680
令和3年4月	15,283,662	85,774	1,578,354	63,190	1,493,200	44,400	759,200	898,475	0	608,710	22,761	614,622	20,838	21,431,510	714,383

2. 利用者介護度別

要介護度	令和3年度 4月	令和4年度												合計	平均/月			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
		要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0
要介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
要介護3	8	9	9	9	9	8	8	8	7	7	6	7	7	7	7	7	94	7.83
要介護4	31	29	28	31	31	32	31	32	35	34	32	33	38	38	38	38	386	32.17
要介護5	21	23	24	22	20	20	21	19	17	15	15	15	15	15	15	15	226	18.83
在籍計	60	61	61	62	60	60	60	59	59	56	53	55	60	60	60	60	706	58.83
総介護度	253	258	259	261	251	252	253	247	246	232	221	228	248	248	248	248	2,956	246.33
平均介護度	4.22	4.23	4.25	4.21	4.18	4.20	4.22	4.19	4.17	4.14	4.17	4.15	4.13	4.13	4.13	4.13	50.24	4.19
利用(在所) 日数 (60床)	1,753	1,792	1,841	1,766	1,824	1,828	1,717	1,694	1,661	1,696	1,569	1,505	1,711	1,711	1,711	1,711	20,604	1,717.00
	1,800	1,800	1,860	1,800	1,860	1,860	1,800	1,860	1,800	1,860	1,860	1,680	1,860	1,860	1,860	1,860	21,900	1,825.00
入院 実人数	2	0	0	1	1	1	3	2	1	0	1	0	0	0	0	0	10	1.43
延日数	35	0	0	7	31	31	14	38	21	0	14	0	0	0	0	0	156	22.29
外泊 実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
延日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
居室稼働率(%)	97.39	99.56	98.98	98.11	98.06	98.28	95.39	91.08	92.28	91.18	84.35	89.58	91.99	1,128.84	94.07			
令和3年度 利用(在所) 日数		1,753	1,844	1,771	1,835	1,838	1,798	1,845	1,827	1,875	1,847	1,625	1,852	21,710	1,809.17			
		1,800	1,860	1,800	1,860	1,860	1,800	1,860	1,800	1,860	1,860	1,680	1,860	21,900	1,825.00			
令和3年度 居室稼働率(%)		97.39	99.14	98.39	98.66	98.82	99.89	99.19	101.50	100.81	99.30	96.73	99.57	1,189.39	99.12			

短期利用実績報告書

利用年度：令和4年度
 サービス：21 短期入所
 事業者：特養 えんじゅ
 表示内容：利用実績表

令和4年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
利用者数	23	23	24	21	19	23	24	24	10	22	23	23	259	21.58
利用延日数	245	202	219	166	132	192	250	229	184	220	247	257	2543	211.92
実収入	2,782,034	2,034,380	2,439,318	1,867,307	1,456,746	2,089,551	2,813,911	2,534,463	1,923,531	2,401,452	2,656,731	2,815,339	27,814,763	2,317,897
実収入/日	92,734	65,625	81,311	60,236	46,992	69,652	90,771	84,482	62,049	77,466	94,883	90,817	917,018	76,205
居室稼働率(%)	81.67%	65.16%	73.00%	53.55%	42.58%	64.00%	80.65%	76.33%	59.35%	70.97%	88.21%	82.90%	838.37%	69.86%
前年比(%)	95.33%	84.88%	90.12%	60.58%	47.66%	69.57%	86.81%	84.50%	68.65%	95.66%	138.76%	118.43%	1040.95%	86.75%

令和3年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
利用者数	28	29	27	29	29	28	27	25	23	22	19	23	309	25.75
利用延日数	257	238	243	274	277	276	288	271	268	230	178	217	3017	251.42
実収入	2,576,289	2,456,431	2,469,992	2,786,965	2,859,458	2,834,813	3,299,259	3,104,783	3,106,086	2,660,578	2,047,856	2,457,988	32,660,498	2,721,708
実収入/日	85,876	79,240	82,333	89,902	92,241	94,494	106,428	103,493	100,196	85,825	73,138	79,290	1,072,456	89,481
居室稼働率(%)	85.67%	76.77%	81.00%	88.39%	89.35%	92.00%	92.90%	90.33%	86.45%	74.19%	63.57%	70.00%	990.62%	82.55%
前年比(%)	87.42%	83.50%	88.04%	108.31%	108.62%	110.40%	119.99%	120.44%	128.23%	109.01%	80.17%	88.22%	1232.35%	102.70%

令和2年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
利用者数	24	24	26	22	23	21	24	28	24	24	23	25	288	24.00
利用延日数	294	285	276	253	255	250	240	225	209	211	222	246	2966	247.17
実収入	2,852,929	2,698,228	2,803,245	2,513,162	2,576,361	2,525,208	2,407,894	2,294,699	2,090,183	2,175,132	2,278,812	2,461,860	29,677,713	2,473,143
実収入/日	95,098	87,040	93,442	81,070	83,108	84,174	77,674	76,490	67,425	70,166	81,386	79,415	976,488	81,309
居室稼働率(%)	98.00%	91.94%	92.00%	81.61%	82.26%	83.33%	77.42%	75.00%	67.42%	68.06%	79.29%	79.35%	975.68%	81.31%
前年比(%)	160.66%	133.19%	161.40%	135.30%	108.98%	115.21%	73.17%	72.12%	83.94%	84.39%	91.24%	81.72%	1301.31%	108.44%

令和4年度
特別養護老人ホームみずき
事業報告書(案)

社会福祉法人 伯和会

特別養護老人ホームみずき

施設基本理念

「愛をもって心を込めて安心できる当たり前の暮らしが送れるよう支援します」のもとユニットケアとしてご入居者の個々の状態・生活リズムに合わせたケアを確立し他職種との連携を密に深めることで個別性の高い、手厚いサービス提供に努めました。

施設運営方針

・安定した施設運営

定員 30 名。他施設と比較し、ユニット型特養の利用料が高額となっており利用料を理由に入居を躊躇う方もおり、下半期 2~3 床の空床が続き稼働率が下がりました。

施設内設備の交換、外部への業務委託にて備品修理費等の削減を行います

(1)施設整備計画

問題発生が予測される箇所及び水周り等の点検を行い、計画的に整備を実施する。(4 年度はエアコン修理が例年に比べ少なかった。)

(2)備品・設備整備計画

(i) 介護機器、レクリエーション等に必要な備品を整備・入れ替え・補充をおこないます。
(ベッド、マットレス、エアマット、リクライニング型車いす、歩行器、PHS、センサーマット、ビームセンサー等)

※令和 4 年度においては、リクライニング車椅子を補充しました。

(ii) 消防設備については年 2 回の専門業者による定期点検の実施をました。不備箇所はありませんでした。

(iii) 車両の法定定期点検のほか、日常のエンジンオイル交換やタイヤ点検などを励行し、必要があれば適切に修理・交換を実施し、常に安全に運行出来るよう努めました。

(iv) 各ユニットの備品を適切に管理し、使用に耐えなくなったものについては速やかに処分し、適切に入れ替え等をおこないました。(ソファ・テレビ・炊飯器等)

(v) 前各項のほか、建物内外のおよび周辺環境の整備、修繕、点検を定期的に行い安全・衛生の確保に努めました。

・人材育成と連携を活かした職場づくり

人材確保の為、インターネット媒体の求人に入れ、さらに高等学校・ハローワークなどへの連携情報提供をおこないます。しかし、高校新卒者の応募は 0 でした。

WEB での外部研修への積極的な参加等を通じて、意識改革や向上心のボトムアップを図りました。

- (i) 年 2 回 の健康診断及び生活習慣病・予防健診の実施。
 - ※ 指名の職員に対して産業医との面談を実施しました。
- (ii) 看護職員及び介護職員には年 2 回の腰痛診断を実施しました。
- (iii) 管理者、役席者による個人面談を状況毎に随時行い、きめ細やかな意思疎通を図よう努めました。
- (iv) 年間研修・講習計画に基づいて、県及び県老人福祉施設協議会、県社会福祉協議会等が実施する施設従事者への各種研修・講習会に参加すると共に施設内においても接遇、虐待、介護技術等の研修を実施して職員の資質の向上を図りました。
(別添 研修・講習計画書 参照)
- (v) ユニットリーダー、介護福祉士、介護支援専門員、認知症介護実践リーダー、胃瘻と喀痰吸引等の事業運営に必須の有資格者の確保に努めました。
 - ※ 令和 4 年度においては、介護福祉士取得の為の実践者研修へ 1 名
喀痰吸引研修へ 3 名 予定通り実施。

・地域交流の活性化

ボランティアの受入、民生委員等施設開放日、家族交流日の設置

※ 4 年度も新型コロナウイルス感染症により実施できませんでした。

事業内容

・日常生活介護 日常生活支援 健康管理

入居者サービス

①健康管理

- (i) 嘱託医、看護師による健康管理を行う。
- (ii) 歯科医師による歯科診療、歯科衛生士による口腔ケアを行う。
- (iii) 感染症予防接種、年 1 回の健康診断（7 月予定）を行う。

②栄養管理

- (i) 利用者個々の状態・体調を考慮し、必要な場合は配置医師による療養食等も含め栄養士による適切な献立作成はもとより、調理方法、味付け、盛り付けにも配慮し、栄養のバランスが取れた食事提供を行う。
- (ii) 地産地消に配慮し、季節感のある献立を取り入れます。
- (iii) 嗜好調査を実施し、その評価を分析により入居者が食べたい食事を提供する。
- (iv) 嚥下食についても内容の充実など食欲増進と安全面の両立を図る。
- (v) 異物等の混入の防止、感染症等に伴い適切な加熱、常に清潔で衛生的なキッチン環境の整備に心がけ、安心安全な食事を提供する。

③機能訓練

兼務の機能訓練指導員（看護職員）と整復師による個人の状態に適した機能回復訓練をおこない身体機能の維持、回復を図ります。

④安全管理

- (i) 年 2 回以上(うち 1 回は夜間想定)の避難訓練の実施のほか、消防署・地元消防団とも密に連携を図り緊急時の対応を万全とする。また、火災・地震・風水害・土砂災害等を想定した避難訓練及び連絡網等の非常時に備えた体制を確立します。
- (ii) 防災備品、非常食を適正に管理し、消費期限の到来するものは定期的に更新する。

⑤行事、地域交流等（感染症の状況により）

- (i) お花見や買い物を含むドライブ等屋外活動をおこないません。
- (ii) 誕生会、クリスマス会、節分など各ユニットにおいて行事をおこないません。時には複数ユニットで共同実施し、ユニット間の親睦を深めるよう努めます。
- (iii) 地元ボランティア・保育園児の訪問・地域交流活動を継続します。
- (iv) 家族交流会等の実施によりご入居様との交流を図ります。
- (v) 外部理容師による施設内散髪を定期的におこないません。

事業内容の各項目に則り実施しました。

⑤の (iii) (iv) のみ新型コロナウイルス感染症の為、未実施。

令和4年度年間研修報告書

No.	研修名	研修内容	研修時期	研修場所	参加者
1	介護職員新人研修	w e b 講義	4月11日	みずき	八島美樹
2	高齢者虐待・身体拘束防止研修	w e b 講義	8月4日	みずき	日下康史 半澤香代子 鈴木理絵
3	看取りケア研修	w e b 講義	9月15日	みずき	渡辺勝枝
4	虐待防止研修 管理者編	w e b 講義	10月4日	みずき	鈴木理絵
5	虐待防止研修 基礎編	w e b 講義	11月7日	みずき	佐藤美帆
6	看取りケア研修	w e b 講義	11月9日	みずき	大野和也
7	新型コロナウイルス感染症研修	w e b 講義	11月22日	みずき	鈴木理絵
8	虐待防止研修 基礎編	w e b 講義	12月6日	みずき	佐藤美帆
9	喀痰吸引研修	w e b 講義 演習	5月～10月	みずき えんじゅ	木村伊織 古山康 我妻敬子
11					
12					
13					
14					
15					

令和4年度

軽費老人ホーム ケアハウスやまぶき

事業報告書(案)

令和4年度 軽費老人ホーム ケアハウスやまぶき事業報告

基本方針

軽費老人ホーム(ケアハウス)は60歳以上(但し、60歳以上の配偶者と共に利用する者についてはその限りではない)で所得を問わず、自炊生活が出来ない程度の身体状況且つ、家庭環境や住宅事情などの理由により在宅にて生活が困難な高齢者を入居させ、食・住などの日常生活に必要なサービスを提供し、生きがいを持って健康で明るい生活を送れるよう支援する。

ケアハウスやまぶき 令和4年度事業報告

◎入居者の状況(令和5年3月31日現在)

人数 / 年齢

性別	人員	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男性	16名	95歳	69歳	78.1歳
女性	32名	97歳	71歳	82.9歳
合計	48名			全体平均 81.3歳

年齢階層別人員

年齢 / 性別	男性	女性	合計	比率
60～65	0名	0名	0名	0%
66～70	5名	0名	5名	10.4%
71～75	2名	1名	3名	6.3%
76～80	3名	2名	5名	10.4%
81～85	3名	6名	9名	18.6%
86～90	2名	12名	14名	29.2%
91～95	1名	9名	10名	20.8%
96～	0名	2名	2名	4.2%
合計	16名	32名	48名	

月別入居者数(毎月末日現在の入居者数)

月 / 性別	男 性	女 性	合 計	入居率
4 月	14 名	32 名	46 名	92%
5 月	14 名	33 名	47 名	94%
6 月	14 名	32 名	46 名	92%
7 月	15 名	32 名	47 名	94%
8 月	15 名	32 名	47 名	94%
9 月	15 名	32 名	47 名	94%
10 月	14 名	31 名	45 名	90%
11 月	14 名	32 名	46 名	92%
12 月	15 名	33 名	48 名	96%
1 月	15 名	31 名	46 名	92%
2 月	17 名	31 名	48 名	96%
3 月	16 名	32 名	48 名	96%
(のべ) 合計	178 名	383 名	561 名	94%

※115 号室・116 号室の各夫婦部屋について、県の承認を得て 1 名での利用を開始。

そのため現在のところ満床でも 50 名まで。(但し入居率は、50 床満床換算で算定)

令和 4 年度入退居者数

	男 性	女 性	合 計
入居者数	4 名	7 名	11 名
退居者数	2 名	7 名	9 名

年度内入居者の入居前の状況

場所 / 性別	男 性	女 性	合 計
自宅、家族宅	1 名	6 名	7 名
病 院	0 名	0 名	0 名
介護保健施設	0 名	0 名	0 名
その他	3 名	1 名	4 名
合 計	4 名	7 名	11 名

年度内退居者の退居後の状況

場所 / 性別	男 性	女 性	合 計
自宅、家族宅	0 名	1 名	1 名
病 院	0 名	3 名	3 名
老人保健施設	0 名	0 名	0 名
その他	1 名	2 名	3 名
死 亡	1 名	1 名	2 名
合 計	2 名	7 名	9 名

年度内月別入院者数(毎月末日現在の入院者数)

月 / 性別	男 性	女 性	合 計
4月	0名	0名	0名
5月	0名	0名	0名
6月	0名	0名	0名
7月	1名	1名	2名
8月	1名	2名	3名
9月	1名	1名	2名
10月	0名	0名	0名
11月	0名	2名	2名
12月	1名	1名	2名
1月	0名	1名	1名
2月	0名	1名	1名
3月	0名	1名	1名
合 計	4名	10名	14名

入居者の IADL 状況(認定外でも家族等の支援必要な者含む)

区分 / 性別	男 性	女 性	合 計	比 率
自 立	7名	13名	20名	41.7%
一部支援	11名	17名	28名	58.3%
合 計	18名	30名	48名	

一部支援内訳(デイ除く)

区分 / 性別	男 性	女 性	合 計	比 率
入 浴	3名	6名	9名	18.8%
排 泄	3名	0名	3名	6.3%
歩 行	4名	21名	25名	52.1%
配 膳	3名	2名	5名	10.4%
通 院	13名	23名	36名	6.3%
掃 除	4名	8名	12名	25.0%
洗 濯	3名	2名	5名	10.4%

介護保険認定者数

認定外	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	合計
12名	0名	6名	13名	15名	2名	0名	48名

介護サービス利用状況(重複あり)

種別 / 性別	男 性	女 性	合 計
ヘルパー	3名	9名	12名
デイサービス	2名	10名	12名
合 計	5名	19名	24名

◎行事・業務内容報告

令和4年度の外部からの行事については、包括支援センターからの講習のみ実施し、その他はコロナ感染症対策の為、すべて中止しました。

敬老会 9月24日	※内容：1部 敬老会 夕食行事食（平禄寿司・茶碗蒸等・汁等） 祝品（百歳ひよこ紅白饅頭等）○×ゲーム（健康内容） 参加者 一部27名 2部43名 職員6名（栄養士2名）
芋煮会 10月19日	※内容：食堂とベランダで昼食（シダックスで調理）歌謡曲鑑賞 芋煮（職員が味付け）・お握り・漬物・果物 参加者 39名 職員8名（栄養士2人）
口腔ケア講習 10月25日	※内容：白石地域包括歯科衛生口腔ケア出前講話（入居者懇談会） 参加者 名
軽体操・口腔ケア 12月9日	※内容：白石市地域包括主催（理学療法士・歯科衛生性・保健師） 参加者：21名 職員3名
クリスマス会 12月20日	※内容：お茶会（ケーキ・紅茶・音楽鑑賞・クリスマスボックスティッシュ2箱プレゼント） 参加者：32名 職員7名（栄養士2人）
行事食（夕食） 12月22日	※内容：ピラフ・鳥の唐揚げ・ポテトサラダ・デザート・コーンスープ 食事提供：43名 職員2名（食事立ち合い）

○R5.1 にコロナウイルス陽性者発生し、入居者10名、職員4名り患、濃厚接触者は11名となりました。約1ヶ月で収束しました。

○水野先生診察 福永先生同席 職員1名立ち合いで実施しています。

月2回（基本的に第2・4木曜。または、第1・3）

○投薬処方 基本的に14日に1回、居宅薬剤管理指導も受けています。

○雨漏り箇所補修・塗装作業（4月～6月）実施し雨漏り改善しています。

- 全館 LED 交換工事（11 月）完了しています。
- 下原地区清掃活動(クリーン作戦) 9/28・3/26 職員 1 名参加しました。
- 下原自治会総会 3/26 (欠席)
- ごみ回収支援（毎週火・金）入居者の状況に合わせて支援しています。
- 毎月、入居者懇談会実施しました。
- 食堂立ち合い配膳下膳見守り支援を実施しました。
- 浴室・共同トイレ・館内・構内清掃（テラス排水溝・中庭等）館内換気・館内消毒
必要に応じ、ご家族・関係者への連絡・救急対応・生活・健康に関する支援しています。
- 職員による月 1 回体重測定（入居者懇談会前後）実施しています。また、予防接種支援を行いました。

新型コロナワクチン予防接種	4 回目	7/7	37 名	5 回目	11/24	34 名
インフルエンザ予防接種	11/8	32 名				
- 令和 4 年度各種健康診査（結核・肺がん）職員による送迎と同行支援行いました。

9/5	4 名	9/7	4 名	9/9	5 名	合計 13 名
-----	-----	-----	-----	-----	-----	---------
- 白石市図書館移動図書館こまくさ号 月 1 回（第 2・3 水曜日）利用しました。
- ボランティアによる外部交流は全て中止しています。
- 園内買物支援を玄関先にて実施しました。
 - 岡崎商店 ゴミ袋・菓子・飲み物等 事前予約 玄関で職員対応（毎週水曜日）
 - ヤクルト等 玄関で直接購入（隔週水曜日）
 - 白石クリーニング（入居者依頼時・現在なし）
 - スパッシュランド白石 食堂で女性服・菓子類等直接購入は中止しました。
 - コダマ（仙台） 食堂で衣料・生活用品販売中止しました。
 - 出張美容室（きらら）（船岡）カット・染め・パーマ・シャンプー）第 1 火曜日実施しました。
- 感染症対策 館内消毒・アルコール手指消毒・手洗い・うがい・マスク着用お願いしました。
 - 館内換気・面会制限・不要不急外出.換気.体調不良時早めの受診.職員に報告等入居者へ声掛け.・換気食事（テーブル 1 名・居室・エントランス利用）等対応しました。

令和4年度
デイサービスセンター茶園
事業報告（案）

社会福祉法人伯和会

デイサービスセンター茶園

運営方針

法人の信条である「奉仕」「博愛」「寛容」を基本とし、ご利用者の人権・人間性を尊重して在宅福祉サービスの目的と意義の実践に徹しました。「安心・安全」「自立支援」「快適」といった基本に基づきながら、ご利用者の心身の特性を踏まえてその有する能力に応じた自立した生活が営むことが出来るよう支援するとともに、ご家族の介護負担軽減に寄与できる事業所となることを目指しました。

重点目標

- ・ 要支援・要介護者の心身の特性・生活環境・残存機能等を踏まえて、その有する能力に応じ自立した生活が営めるように支援しました。
- ・ 職員一人一人が自己啓発目標を掲げ、接遇及び介護技術の能力、質の向上を図りました。
- ・ 利用者から「どのように見られ、思われているか」を常に意識してケアを行いました。
- ・ ご利用者側の視点に立ちできることを増やすことで、生活意欲が持てるよう支援しました。
- ・ 地域関係市町村・地域保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り総合的なサービスの提供に努めるとともに、より身近な関係者（民生委員、自治会長等）と定期的な運営推進会議を実施しました。

事業計画（地域密着型通所介護）

1 基本サービス主要実施概要

① サービス提供時間

- ・ 9時30分から16時30分の7時間で実施しました。
- 送迎は、状況に合わせてピストンでの2便送迎を実施しました。

② 利用定員

- ・ 18名。

③ 相談指導

- ・ 送迎時や電話、連絡帳、茶園便り等を通し、相談や助言を行ないました。

④ 健康管理

- ・ 毎利用時に、表情などの状態確認、血圧、脈拍、体温の測定、月1回の頻度での体重測定を行い、各利用者の健康状態の把握に努めました。
- ・ 排泄状況・食事摂取量・水分摂取量・精神状態などの観察を行いました。

⑤ 機能訓練(レクリエーション)

- ・介護予防の観点からより効果的に心身機能の維持・向上が図れるよう、各利用者の状態及び主体性を重視した内容のレクを実施しました。
- ・月1回程度の割合で行事を取り入れ、季節感や社会との繋がりを実感できるように工夫しました。
- ・利用者の趣味や特技を生かした活動を積極的に実践しました。

⑥ 入浴

- ・身体の清潔保持と精神的な満足感が得られるよう、利用者の身体状況に応じた入浴または清拭を行いました。

⑦ 食事

- ・利用者の嗜好並びに状態に応じた食事を提供しました。行事の際は、季節に合わせた献立内容を考え、見た目にも楽しめる食事が提供できるように工夫しました。

⑧ 口腔ケア

- ・口腔ケアの重要性について、職員・利用者・家族等に周知徹底し、食後の口腔ケアを実施しました。

2、職員の資質向上

- ① 法人内外の会議・研修会等に参加し、福祉・介護に対する知識・技術の向上と、自己覚知からの本質的な資質向上を行いました。
- ② 他施設や各方面からの情報収集を行い、各事業所の長所を参考にしてサービスの見直し・向上を行いました。

3、地域との交流活動

- ① 地域と密接した在宅福祉サービスを図るため地域の習慣や風土を理解し地域の拠点としての福祉サービスのネットワーク作りに努めました。
- ② ボランティアの受け入れ、活用を行い、地域と顔の見える関係性を築こうと計画しましたが、コロナ感染予防対策で行えませんでした。

4、防災対策

- ① 伯和会災害マニュアルの周知を行い、災害時の対応、避難方法等について職員、ご利用者が迅速に対応できるよう避難訓練等を行いました。
- ② ご利用者、ご家族との緊急時の安否確認や連絡方法等を確認しました。

5、年間目標

- ① 地域密着型通所介護の利用定員は1日18名で越えてはならないと決まっている中、年間稼働率85%以上(1日平均15.3名)を目標としました。その為の活動として、新規利用者獲得のための市内の介護支援専門員への働きかけ(空き情報提供や介護

支援専門員との関係性作り)を行いました。他事業所との交流などは、感染予防対策の為実施来ませんでした。

- ② 各種加算の見直しを行い、介護報酬が最大限得られるように努めました。
- ③ 登録者以外の臨時利用についても、こちら側からご利用者、ご家族の要望等を聞いて臨時利用の対応を行って、利用者数の確保に努めました。

6、設備、備品

- ① 脱衣場での更衣の際、スクリーンを使用しているがキャスターに躓く利用者がある為、天井から吊るすようなカーテンの設置を検討してありますが実施できておりません。しかし、浴室、脱衣場共に窓のカーテンは新しく設置することができました。
- ② 浴室、ホールと南向きであり、夏場はよしず等で暑さ対策をしているが冷房能力が追い付かず、室温が30度を超えるような状況となる場合が見られており、今年度も適宜改善策を実施しました。
- ③ 新たなレクや質の向上を図るため、高齢者介護をサポートするレクリエーション情報誌レクリエの年間購読を行ったことで、活動に活かすことができました。

7、令和4年度利用者・行事实績（別紙）

- ・新型コロナウイルスの感染状況で利用を控える方も数名おりました。感染対策は、送迎時の検温、消毒、到着時の手洗い、消毒と徹底して行いました。その他、アクリル板の使用、換気を実施しています。密にならない工夫として、一定の距離をおいて利用者の方の座席を配置して対応しました。
- ・新型コロナウイルス感染者が発生し、8月と12月に休業した期間がありました。
- ・新型コロナウイルスの感染状況により、内容が変更となることがありました。
- ・新たなレク等を随時取り入れながら、利用者の満足度を高めるようにしました。
- ・季節に応じた行事を企画し移り変わり等季節感を感じていただけるようにしました。
- ・お花見会実施については、職員の人数と車両の確保を考慮し、他部署との重複を避け開催時期等協議の上、決定しました。

(別紙)

I. 令和4年度3月最終週の登録者：定員18名

月	火	水	木	金		
16	17	12	17	17		
要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
1	4	8	14	12	0	5
実登録人数 44名			延べ登録人数 79名			

※要介護度別人数は3月のレセプト情報より集計

※総合事業対象者の要支援1相当は要支援1、要支援2相当要支援2へ含む

II. 令和4年度利用状況 ※1か月延べ利用人数

利用月	通所介護	1日あたりの平均	予防、総合事業	1日あたりの平均	1か月合計人数
4月	277	13.2	18	0.9	295
5月	259	13.6	12	0.6	271
6月	283	12.9	18	0.8	301
7月	253	12.0	18	0.9	271
8月	205	8.9	19	0.8	224
9月	262	11.9	24	1.1	286
10月	235	11.2	21	1.0	256
11月	239	10.9	20	0.9	259
12月	40	2.0	4	0.2	44
1月	224	11.2	18	0.9	242
2月	226	11.3	19	0.95	245
3月	262	11.4	26	1.1	288
年合計	2,765	10.9	217	1.6	2,982

※8月、12月はコロナ感染者発生の為、かなりの減員となっています。

III. 活動内容

	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
4月	数字合わせ	割鍋閉蓋	スカットボール	棒体操	とったら負けよ
5月	鯉のぼりゲーム	グッとタイミング	一網打尽	数字合わせ	製作物
6月	製作物	風船運動	七夕制作	七夕制作	豆つかみ
7月	豆つかみ	ふりふり	うちわピンチ	タオル体操	数字合わせ
8月	ナイスフィッシング	棒体操	製作物	夏祭り	取ったら負けよ
9月	取ったら負けよ	ペタンク	風船パタパタ	カーリング	ひらがな合わせ
10月	文字あてサッカー	タオル体操	芋煮会	うちわでピンチ	割鍋綴蓋
11月	割鍋綴蓋	ふりふり	豆つかみ	数字合わせ	制作物
12月	製作物	休業	休業	休業	短時間営業
1月	お正月あそび	ふりふり	ペタンク	棒体操	鬼退治
2月	鬼退治	一網打尽	スカットボール	製作物	ポケネット
3月	ポケネット	言葉作り	タオル体操	風船パタパタ	数字合わせ

令和4年度

居宅介護支援センター茶園

事業報告書（案）

居宅介護支援センター茶園

令和4年度 居宅介護支援センター茶園 事業報告

- 1、 ご利用者様の自宅を訪問、ご利用様の心身の状況、置かれている住環境等を把握し、総合的な視点から、居宅介護サービスおよび必要な保健・医療サービス、福祉サービスを総合的かつ効果的に提供されるように専門的な立場から支援を行いました。
- 2、 主任介護支援専門員として、医療機関および介護サービス事業者に出向き事業所の特徴を把握し、ご利用者様に紹介出来るよう努めました。また、医療機関および介護サービス事業所と連携を図り、ご利用者様をチームで支援できるように、サービス担当者会議等の調整会議を積極的に開催しました。
- 3、 白石市地域包括支援センターおよび民生委員から処遇困難ケース、末期がん・生活困窮者・ご家族の支援が必要なケース・一人暮らし高齢者の相談あり。その支援のため、インフォーマル（地域住民・ご親戚・民生委員）およびフォーマル（医療機関・福祉事務所・介護サービス事業所等）サービスを組み合わせることから、安心安全に、ご利用者様がご自宅で生活できるよう支援を行いました。

居宅介護支援センター茶園（事業報告）

1.居宅介護支援利用事績（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

(1) 居宅介護支援利用状況

月	新規契約件数	国保連請求件数	介護サービス実績なし件数	契約終了件数
4月	2	13	2	0
5月	0	15	1	0
6月	1	16	1	1
7月	2	17	1	0
8月	2	18	2	0
9月	1	19	1	0
10月	0	19	1	0
11月	0	19	1	0
12月	1	20	1	0
1月	0	19	1	1
2月	0	19	1	0
3月	1	20	1	1
合計	10	214	14	3

(2) 介護予防支援利用状況

介護予防プラン請求	要介護者訪問件数
3	1
3	1
2	1
2	1
2	1
2	0
2	0
2	1
2	0
2	0
2	1
2	0
2	1
2	0
26	7

2.会議・研修等の実績

- (1) 居宅サービス計画担当者会議 10回実施
- (2) 第1回白石市介護支援専門員連絡協議会 1名参加（4/15:総会・令和4年事業計画）
- (3) 第3回白石市自立支援地域ケア会議 1名参加（6/15）
- (4) 第4回白石市自立支援地域ケア会議 1名参加（7/20:事例発表）
- (5) キャラバンメイト・住民ボランティア研修会 1名参加（9/16）
- (6) 第4回白石市介護支援専門員連絡協議会 1名参加（10/18:ケアマネから見る自立支援）
- (7) 令和4年度 白石市高齢者虐待防止対策推進会議 1名出席（11/24:委員への委嘱状交付）
- (8) 第5回白石市介護支援専門員連絡協議会 1名参加（12/15:相談援助技術について）
- (7) 伯和会 内部研修会の開催 9回開催（毎月最終月曜日）

3.伯和会法人 他事業所支援

- (1) 地域密着型デイサービスセンター茶園（利用者送迎）
 - 8：30～ 9：30 朝送迎支援
 - 16：30～17：30 夕送迎支援
 - 毎日（2時間×20日）40時間（5日分）
- (2) 軽費老人ホーム ケアハウスやまぶき（土曜・日曜・祝日の日直業務）
 - 毎月2日間（8時間×2日間） 16時間（2日分）